

シグマ委員会核データ情報／評価専門部会
熱中性子散乱WG 昭和45年度第4回会合議事録

日 時 昭和45年10月1日 午後1時～5時20分

場 所 原研東海研A会議室

出席者 角谷，大竹，坂本，中原，後藤，飯泉，千原，関谷

以上8名

配布資料

1. 文献と物質名の記入法リスト 坂本
2. 45年度第2回シグマ研究専門委員会議事録 坂本
3. Be と Graphite の total scattering C. S. 角谷
4. W. Schott の論文の要約 (Z. Physik, 231, 243 ('70)) 角谷
5. Kerr and Sjölander の論文 (Phys. Rev., B1, 2723 ('70)) 後藤

議長 飯泉 仁

議事

1. 一般報告

坂本氏より大要次のような報告があった。予算の局内示がでた。所の段階では2000万円であったが、局内示は1200万円である。例年より300万円少ないが、これは計算費が少なくなったためである。核データセンターの名称は認められず、核データ管理室とするよう指示されている。46, 47, 48年度の人員計画はこの3年間に核データの人員を増し、炉定数は49年度から人員を増すようになっているが、これにはメーカ側委員から異論がでている。熱中性子散乱WGについての委員長の諮問に対する小委員会の答申が本委員会の席上飯島氏より発表された。その時点で小委員会は解散されたが、本委員会としての結論は出ず、次回に持越された。また百田委員長から熱中性子については海外でも我が国と同じような問題をかかえているとの報告があったとのことであった。

2. 文献調査

坂本氏より大要次のような報告があった。7月以前に割当てた分はほぼ終了している。カードには約1200件パンチされている。1回目のカード・チェックは済んでいる。そろそろ出版物にすることを考えている。重要な文献で落ちているものがあるかも知れないので、一度チェックしたい。

具体的な物質名で分類できない文献の分類法はあいまいで、検討を要するとの発言があり、討論の結果千原氏が案を作ることに決った。

物質名リストは見にくないので、工夫が必要であるとの発言があり、この件についてはカードにパンチしてソータで配列すればよいということになり、坂本氏と千原氏が担当することになった。

3. 国際炉物理夏の学校(ユーロ)の報告

上記会合に出席された関谷氏よりその帰国報告があった。

4. Be とグラファイトの散乱断面積

角谷氏より GASKET-FLANGE, UNCLE, THRUSH で計算した Be の σ_s (cm^2) が一致しないとの報告があった。特に GASKET-FLANGE による値はブラック切断エネルギー以下で測定値よりかなり大きくなることが注目された。また THRUSH の値は E が小さいところでは UNCLE の値、大きいところでは GASKET-FLANGE の値に一致する。グラファイトについても不一致がみられるとのことであった。

5. 文献紹介

角谷氏より W. Schott の論文紹介があった。

後藤氏より Kerr and Sjölander の論文紹介があった(後半次回持越し)。

次回予定

日 時 11月6日(金) 午後1時30分～

場 所 東京